

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201427
法人名	有限会社まごころデイサービスセンター
事業所名	グループホーム隠居の家
所在地	宮城県石巻市井内字三番113-2 グループホーム隠居の家
自己評価作成日	令和 5年 9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設環境の中でも個人個人が自由にゆったりとした時間を過ごしていただけるよう、まごころ溢れる支援を提供できるように各職員が心がけてお手伝いいたします。またご本人様の思いや意向、暮らし方などを把握しその人らしく過ごしていただけるように日々寄り添った支援を実施していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはJR陸前稲井駅から200m程の所にあり、西側を流れる旧北上川を挟み石巻市街地が広がっている。職員は、「泣いたり笑ったり」「行ってらっしゃい・お帰りなさい」「自分らしさ」等の理念を共有し、家庭的な雰囲気大切にしている。目標達成計画に掲げた「本人の希望・要望に応えた季節的な外出」については、春はつづじやあやめ、秋は紅葉狩り、入居者と一緒に買い物に出かける等で達成している。入居者にとってホームが我が家であり、「自分らしさ」を大切に生活ができるよう支援している。職員は一人ひとりに寄り添い「チームケアの実践」に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 5年11月 7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や生活保護制度などの取り組みについて支援できる体制作りをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書等について説明をし同意を得てサービス提供している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に現在の生活状況や往診の状況検査結果等お伝えしている。	家族は、料金の支払いで毎月来訪する。その際、受診結果などを報告している。居室での面会も可能にしているが、感染防止を意識し、玄関で面会して帰る方もいる。家族の要望で訪問歯科を利用している方がいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	感染対策や業務分担をしながら職員の負担の軽減に努めている。	職員の意見で給湯器の買い替えや水道の蛇口交換、車椅子への移乗には複数人で行うの意見に対応した。ゴミ出しの日は管理者が早朝出勤し、ホームに職員が不在にならないよう対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを行い向上心を持って働ける環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	動画での研修や資料などにより最新の内容を研修に使い進めている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設等からのご紹介や見学などをして頂きどういったサービスが適切かなど質の向上に努めている。	市の集団指導に参加し、介護保険法の改正や感染防止対策について研修した。老健からの入居者がおり、市の担当者や医師と話し合いを持った。調剤薬局には、看護職員が薬を受け取りに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居者様とゆっくりお話を出来るように余裕をもって業務にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なことなどを確認して今後の支援にその思いが反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師の意見書やアセスメントから課題検討用紙へ移る段階でどのような支援が必要か見極めその後の支援に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節的な食べ物の献立や一緒に将棋やゲームかるたなどを行い共に楽しく過ごしあえるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の実施や往診の検査結果など電話で連絡をしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行いながら家族様親族様の面会を出来る限り実施する支援を行っている。	コロナ禍で制限していた遠方からの親族等の面会を可能とした。職員が整髪やカットをしており、ホームの床屋さんとして馴染んでいる。入居者の馴染みのスーパーで生活用品や食材等を一緒に出掛けて買っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と一緒に畑へ苗植えや季節の折り紙作り等利用者様同士で共同作業に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退所した利用者様家族様からの相談等があった時などは様々な支援をできるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で利用者様の希望や言葉を聞き思いを聞けるようにしている。	日常的に会話の中で思いや希望を聞いている。会話が困難な方はジェスチャーを使う等その人毎のコミュニケーションを取っている。「スーパーに行って買い物をしたい」などの思いを職員と一緒に叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や生活状況を家族様利用者様にこれまでの経過や生活環境をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の介護支援記録やケース検討を行い情報の共有を実施している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行いながら職員全体で介護計画を個別に把握できるようにしている。変化がある場合には現状にあった計画にしている。	計画は3ヵ月毎にモニタリングを実施し、職員から情報を得て、ケアマネが作成している。状態変化があった場合はその都度見直す。退院直後の食事形態や訪問医の指導により、服薬の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援記録を毎日作成し全職員で情報の共有と実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診後の検査や他の通院など様々なニーズに対応できるように臨機応変に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策をしながら地域の祭りの見学や駅の見学などを楽しんでいる。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の往診と定期的な病院での検査を実施していただいている。検査結果は家族様に報告をしている。	入居者全員がかかりつけ医受診であり、月2回の訪問診療を受けている。看護師が職員としており、状態の観察と主治医への報告や服薬管理を行っている。専門医の受診は職員が同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や往診時またはその都度電話で何かあるときは相談して支援を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などは定期的に病院との連絡を頂いている。退院の時などその後の生活がスムーズにできるように病院との関係作りをしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最初の段階でターミナルケアについてはお話をしています。日常の状態変化においても入院時など現状において施設での生活ができるかを主治医、家族様等と話し合っている。	入居時に「重度化対応・終末期対応の指針」を説明し、家族の同意を得ている。症状が重度化したり食事が困難になった時に、医師の判断で入院かホームで様子を見るなど対応している。急変時は緊急搬送し、看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設看護師より応急手当や初期対応の内部研修を実施して急変や事故発生に備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は消防職員立ち合いで訓練をしました。また様々な災害を想定して現実に避難をしていくか現状を全職員で再確認できている。	夜間想定を含め3回避難訓練を行っている。日中想定訓練では、消防署員から移動の際の注意事項や消火設備、消火器の期限把握の指導があった。備蓄は3日分保有し、発電機や灯油ストーブ等も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの対応を考え生活歴などを聞きながらその個人が自由に暮らしていただける支援をしている。	名前は「さん」を付けて呼んでいる。居室に入る際はノックをして確認することを共有している。スピーチロックに注意し、同性介助や同じ目線で接し、不快にさせない言葉かけを意識して、その人を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いや希望をくみ取れるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶おやつの時間にどのように過ごしたいかなどを聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感の色や服などを自分で選んだりしていただく支援をしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から収穫した野菜などの献立や好きな物や季節的な物を入居者様と話して料理していきます。片付けなども協力していただいております。	献立は入居者の希望を聞き、職員が交代で作成している。食材購入は入居者と一緒に選ぶなど好みを反映させている。夕食時の漬物は欠かさず提供している。施設の畑から収穫した夏野菜が食卓に彩を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際の量や水分量を支援記録に記録し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	主治医のもと排泄コントロールを実施、排泄パターンの把握を行い下剤の調節やトイレ誘導の時間などを工夫している。	自立している方は3名、夜間のみオムツが5名である。排泄チェック表や排泄パターンの把握をし、早めの声掛けで、失敗等は殆ど無い。下剤使用後の排泄時間は情報を共有し、特に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と乳製品の摂取により便秘の予防を実施している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は一人3日に1回のペースで実施していますがその日に入りたい方やお出かけ前など臨機応変に対応しております。	入浴は3日に1回としている。転倒防止対策として手摺りや滑り止めマットを設置している。重度の方は2人介助で全介助の方はシャワー浴で対応し、清潔の保持に努めている。好みのシャンプーを使用する方が半数いる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ナイトケアを実施し落ち着いて眠りにつけるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診などで頂いた入居者様の処方箋をその都度確認して情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操、ラジオ体操や将棋、工作など一人ひとりの楽しみを実践支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合は日用品などの買い物にいつでも出かけられるようにその都度声掛けをしている。	春のつばじやあやめ、秋は紅葉等季節を感じる外出をしている。天気の良い日を選んで、稲井ふれあい公園やスーパーに出掛けるなどしている。外出の際は、人の少ない時間帯や場所を事前に確認している。畑の収穫作業も楽しみの一つである。。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の必要な物品や食べたいお菓子などメモしてもらい買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月面会などで話す機会や家族様と連絡を取ることができる支援をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月手作りカレンダー制作と季節の貼り絵などをみんなで作りそれらを自室やダイニングのみんなの共用空間に飾っています。	ダイニングは天窓があり明るく、温湿度が管理されている。壁には敬老会や誕生会等の行事写真を飾り、皆で制作した大きなカレンダーがある。毎日夕方、手摺りや床などの消毒を行い、定期的に換気を行い感染症発生防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では自由にテレビを見たり工作をしたりその時の思いで過ごしていただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅などからタンスやテレビなどを持ってきた頂き使用しています。レクの写真や折り紙などを配置している。	備品はベッドやエアコンがあり、天窓付きが4部屋ある。使い慣れたタンスやテレビ、衣装ケース等を持ち込んでいる。レクリエーションの写真や自作の習字を貼り、テレビを見たり本や新聞を読んで寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の場所を分かりやすく表示し歩きやすいようにして手すりも配置、照明も足元が分かるように安全を考え設置している。		